平成20年度

八戸市の財務諸表（概要版）

平成20年度　八戸市の財務諸表

普 通 会 計

これまでの地方公共団体の公会計制度は、その年にどのような収入があり、それをどのように使ったかといった現金の動きがわかりやすい反面、市が整備した資産や借入金などの負債といったストック情報や、行政サービス提供のために発生したコスト情報の不足といった弱点がありました。市では市民の皆さんにより詳しく市の財政状況を理解していただくために、昨年に引き続き総務省の推奨するモデルのうち、「総務省方式改定モデル」を用いて財務諸表（４表）を作成しました。市の財政状況を新たな視点から分析し、これまで以上に効率的な財政運営を行って参ります。

バランスシート

「バランスシート」とは、市民の皆様が利用する市の施設(財産)、市の所有する現金や債権、資産形成のために投資された資金などがどのくらいあるかを示したもので、資産・負債・純資産の三つの要素から構成されています。

資産　3,039億円

市が所有している財産の内容と金額です。行政サービスの提供能力を示しています。

【内訳】
- **公共資産**　2,703億円
  - 道路、公園、学校、庁舎など
- **投資等**　267億円
  - 基金、出資金、長期延滞債権など
- **流動資産**　69億円
  - 現金・預金、財政調整基金、市税未収金など
  - **うち歳計現金**　32億円

負債　1,110億円

借入金(市債)や将来の職員の退職金など、将来世代の負担で返済していく債務です。
対前年度比で13億円減少しました。

純資産　1,929億円

現世代が既に負担して、支払が済んでいる正味の資産です。市全体の63.5%を占めています。

計　3,039億円　⟷　計　3,039億円

行政コスト計算書

市の行政活動は福祉や教育などでの人的サービスや給付サービスの提供など、資産形成につながらない行政サービスが大きな比重を占めています。そのためのコスト(原価・費用)がいくらかかっているかを整理したものが「行政コスト計算書」です。20年度の八戸市の1年間のコストの総額は715億円となります。

経常行政コスト（A）　715億円

【内訳】
- **人にかかるコスト**　102億円
  - 職員の給与・退職手当など
- **物にかかるコスト**　172億円
  - 物品購入、光熱水費、施設などの修繕費、減価償却費など
- **移転支出的なコスト**　419億円
  - 生活保護費や児童手当などの社会保障給付、各種団体への補助金、繰出金など
- **その他のコスト**　22億円
  - 地方債の利子など

経常収益（B）　27億円

行政サービスの利用で市民の皆様が直接負担する施設使用料や手数料などです。

純経常行政コスト（A）－（B）　688億円

経常行政コストから経常収益を差し引いた純粋な行政コストです。

資金収支計算書

1年間の市の現金の収入(歳入)と支出(歳出)が、どのような理由で増減しているかを性質別に区分して整理したものが「資金収支計算書」です。八戸市の場合、経常収支の黒字分を大きな資金が必要となる資産整備やそのための借入金の返済に充てているということがわかります。財務諸表４表のうち、唯一現金主義により作成しています。

期首(19年度末)資金残高　26億円

当期収支　6億円

【内訳】
- 経常的収支　177億円
- 公共資産整備収支　△33億円
- 投資・財務的収支　△138億円

期末(20年度末)資金残高　32億円

純資産変動計算書

市の純資産(正味の資産)が、平成20年度中にどのように増減したかを示します。20年度の八戸市の純資産は負債の減少などにより22億円増加しています。

期首(19年度末)純資産残高　1,907億円

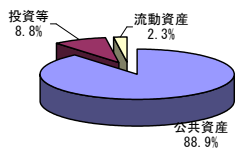
当期変動高　22億円

【内訳】
- 純経常行政コスト　△688億円
- 一般財源等　708億円
- その他　2億円

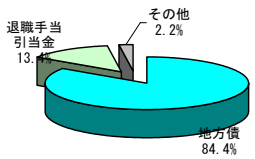
期末(20年度末)純資産残高　1,929億円

バランスシートの構成比

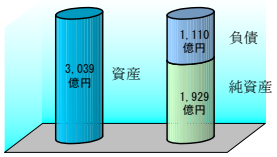
資産の構成比



負債の構成比

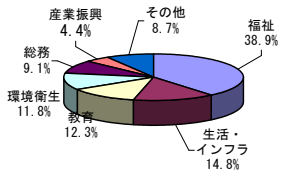


資産・負債バランス

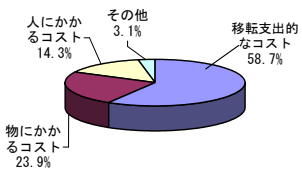


行政コスト計算書の構成比

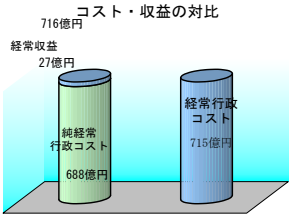
行政目的別構成比



経費種別の構成比



コスト・収益の対比



平成20年度　八戸市の財務諸表

市 全 体

市全体の範囲

市全体

普通会計

一般会計
土地区画整理事業特別会計
学校給食特別会計
公共用地取得事業特別会計
霊園特別会計

自動車運送事業会計
市民病院事業会計
国民健康保険特別会計
魚市場特別会計
下水道事業特別会計
駐車場特別会計
中央卸売市場特別会計
老人保健特別会計
農業集落排水事業特別会計
介護保険特別会計
南郷診療所特別会計
住宅用地造成事業特別会計
後期高齢者医療事業会計

市では普通会計で行っている事業のほかにも、交通事業や病院事業、下水道事業、国民健康保険事業など、市民の皆様と密接な関わりをもつ事業を行っています。市の財政は普通会計のみで成り立っているわけではないため、八戸市全体のストック情報やコスト情報を把握するためには、企業会計や特別会計までを対象とした市全体の財務諸表を用います。なお、普通会計から各会計への出資金・繰出金等は内部取引として相殺消去しています。

市全体のバランスシート

普通会計に属さない会計を含めて市全体を一つの行政サービス実施体として、資産や負債のストック情報を網羅した財務諸表が「市全体のバランスシート」です。

資産　4,458億円

市全体の財産所有の内容と金額です。

【内訳】
公共資産　4,126億円
　道路、公園、学校、庁舎、病院、下水道など
投資等　201億円
　基金、出資金、長期延滞債権など
流動資産　124億円
　現金・預金、財政調整基金、市税未収金など
　うち歳計現金　49億円
繰延勘定　7億円

負債　2,068億円

普通会計の借入金に、市民病院や下水道事業の借入金などが加わっています。

純資産　2,390億円

現世代が既に負担して、支払が済んでいる正味の資産です。市全体の53.6%を占めています。

計　4,458億円　⟷　計　4,458億円

市全体の行政コスト計算書

「行政コスト計算書」の考え方を普通会計以外の会計に適用し、市全体をひとつの行政サービス実施体として作成したのが「市全体の行政コスト計算書」です。国民健康保険や介護保険など、市が行う福祉目的事業の中には特別会計で行われるものも多いため、普通会計ベースの行政コスト計算書と比較して、移転支出的なコストである社会保障給付の割合が高くなっています。

経常行政コスト（A）　1,274億円

【内訳】
人にかかるコスト　177億円
　職員の給与・退職手当など
物にかかるコスト　301億円
　物品購入、光熱水費、施設などの修繕費、減価償却費など
移転支出的なコスト　739億円
　国民健康保険事業や介護保険事業などでの社会保障給付、各種団体への補助金等
その他のコスト　57億円
　地方債の利子など

経常収益（B）　444億円

使用料や手数料などに加え、市民病院で支払う医療費、国民健康保険税、介護保険料なども含まれます。

純経常行政コスト（A）－（B）　830億円

経常行政コストから経常収益を差し引いた純粋な行政コストです。

市全体の資金収支計算書

現金主義により作成するため、交通事業や病院事業などの発生主義を採用している会計は、取引事実の発生ではなく、会計年度内に実際に収入・支出が行われた額へ決算書類の組替えを行っています。

期首（19年度末）資金残高　41億円

当期収支　8億円

【内訳】
経常的収支　196億円
公共資産整備収支　△34億円
投資・財務的収支　△154億円

期末（20年度末）資金残高　49億円

市全体の純資産変動計算書

市全体での純資産（正味の資産）が、平成20年度中にどのように増減したかを示します。平成20年度の市全体の純資産は普通会計の負債の減少などにより42億円増加しています。

期首（19年度末）純資産残高　2,348億円

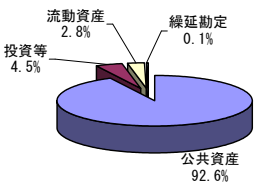
当期変動高　42億円

【内訳】
純経常行政コスト　△830億円
一般財源等　865億円
その他　7億円

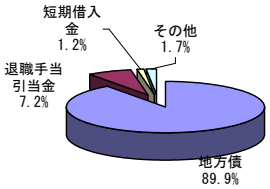
期末（20年度末）純資産残高　2,390億円

バランスシートの構成比

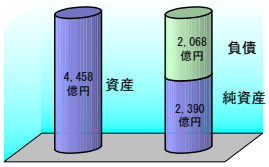
資産の構成比



負債の構成比

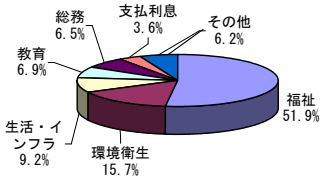


資産・負債バランス

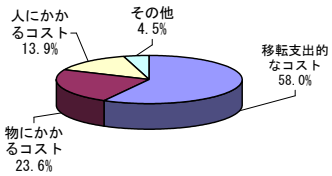


行政コスト計算書の構成比

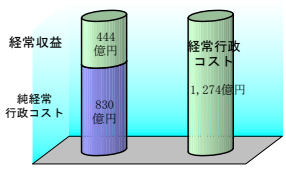
行政目的別構成比



経費種別の構成比



コスト・収益の対比



平成20年度　八戸市の財務諸表

連　結

市が行う行政サービスには市自らが行う事業とは別に、一部事務組合や公益法人などの関係団体を通じて行う事業もあります。真の八戸市全体のストック情報やコスト情報を把握するために、市の普通会計や企業会計、特別会計に加え、市が一定以上出資している関係法人までを対象としたものが連結財務諸表です。なお、市から連結対象法人などへの出資金や補助金、委託料などは内部取引として相殺消去しています。

連結の範囲

連　結

八戸圏域水道企業団
八戸地域広域市町村圏事務組合
八戸市階上町田代小学校中学校組合
三戸郡福祉事務組合
青森県後期高齢者医療広域連合
青森県交通災害共済組合（※）
青森県市長会館管理組合（※）
青森県新産業都市建設事業団
八戸市土地開発公社
(財)八戸地域高度技術振興センター
(財)八戸地域地場産業振興センター
(財)八戸市総合健診センター
(財)八戸市体育振興公社
(財)八戸市公会堂
(社福)八戸市社会福祉事業団
(財)公共施設管理公社
(株)グリーンプラザなんごう

市全体

自動車運送事業会計
市民病院事業会計
国民健康保険特別会計
魚市場特別会計
下水道事業特別会計
駐車場特別会計
中央卸売市場特別会計
老人保健特別会計
農業集落排水事業特別会計
介護保険特別会計
南郷診療所特別会計
住宅用地造成事業特別会計
後期高齢者医療事業会計

普通会計

一般会計
土地区画整理事業特別会計
学校給食特別会計
公共用地取得事業特別会計
霊園特別会計

※印の団体は新公会計制度の財務書類が未整備のため連結から除外しています。

連結バランスシート

連結対象の各団体・法人をひとつの行政サービス実施体として、資産や負債のストック情報を網羅した財務諸表が「連結バランスシート」です。

資産　5,206億円

市全体の財産所有の内容と金額です。
【内訳】
公共資産　4,869億円
道路、公園、学校、病院、下水道、上水道など
投資等　103億円
基金、出資金、長期延滞債権など
流動資産　227億円
現金・預金、財政調整基金、未収金など
うち歳計現金　91億円
繰延勘定　7億円

計　5,206億円

負債　2,382億円

連結することにより、青森県新産業都市建設事業団の短期借入金などが加わっています。

純資産　2,824億円

現世代が既に負担して、支払が済んでいる正味の資産です。市全体の54.2%を占めています。

計　5,206億円

連結行政コスト計算書

「行政コスト計算書」の考え方を連結対象の団体や法人になどにも適用し、ひとつの行政サービス実施体とみなして作成したのが「連結行政コスト計算書」です。

経常行政コスト（A）　1,497億円
【内訳】
人にかかるコスト　237億円
職員の給与・退職手当など
物にかかるコスト　377億円
物品購入、光熱水費、施設などの修繕費、減価償却費など
移転支出的なコスト　818億円
児童手当や生活保護費、国民健康保険事業や介護保険事業などでの社会保障給付、他団体への補助金など
その他のコスト　65億円
地方債の利子など

経常収益（B）　532億円
使用料や手数料などに加え、市民病院で支払う医療費、国民健康保険税、介護保険料、水道料金なども含まれます。

純経常行政コスト（A）－（B）　965億円
経常行政コストから経常収益を差し引いた純粋な行政コストです。

連結資金収支計算書

「資金収支計算書」の考え方を連結対象の団体や法人などにも適用し、連結グループの収支の実態を表すのが「連結資金収支計算書」です。現金主義により作成するため、八戸圏域水道企業団や㈱グリーンプラザなんごうなどの発生主義を採用している法人は、取引事実の発生ではなく、会計年度内に実際に収入・支出が行われた額へ決算書類の組替えを行っています。

期首(19年度末)資金残高　76億円

当期収支　15億円
【内訳】
経常的収支　247億円
公共資産整備収支　△49億円
投資・財務的収支　△183億円

期末(20年度末)資金残高　91億円

連結純資産変動計算書

連結ベースでの市の純資産(正味の資産)が、平成20年度中にどのように増減したかを示します。平成20年度の市全体の純資産は負債の減少などにより63億円増加しています。

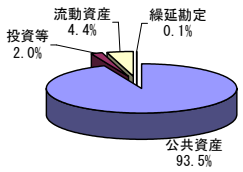
期首(19年度末)純資産残高　2,761億円

当期変動高　63億円
【内訳】
純経常行政コスト　△965億円
一般財源等　1,017億円
その他　11億円

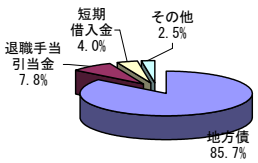
期末(20年度末)純資産残高　2,824億円

バランスシートの構成比

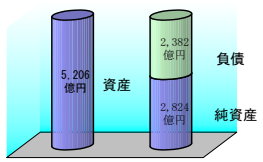
資産の構成比



負債の構成比

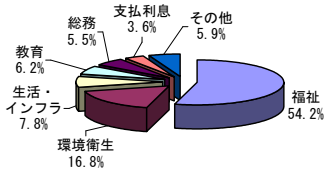


資産・負債バランス

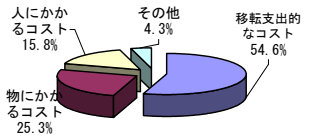
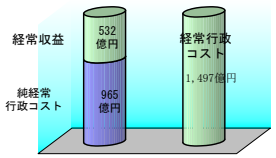


行政コスト計算書の構成比

行政目的別構成比



経費種別の構成比



コスト・収益の対比